

# おとな・り(re)スタッフの 喜怒“愛”楽

“世田谷を愛する”おとな・り(re)スタッフの日々のできごと・ひとりごと

九品仏の奥沢城址  
伝説の花・鷺草  
(サギソウ)を探しに



世は空前の城ブーム。私も4月、桜に包まれた山陰の城々に登城してきました。

さて、我が世田谷の城といえば、北の世田谷城に南の奥沢城。豪徳寺近くの世田谷城址は知っているけど、奥沢城って？石垣とか残ってるの？ 実は、自由が丘にほど

近い名刹・九品仏がその奥沢城址。区の花“鷺草(サギソウ)”の由来となったお城です。

足利一族の武蔵吉良氏の側室として寵愛を受けた常盤姫は、世田谷城でほかの側室達の嫉妬と讒言(ざんげん)で自害の道へ。自らの悲運を奥沢城の父へ白鷺の脚に手紙を結び知らせようとしたものの…。その白鷺に似た清らかで繊細な鷺草が繁っていたと思われる池は今や失われていますが、土塁(どるい)や緑の大木が城(館)を忍ばせます。夏の鷺草の時季にぜひご登城あれ！

<写真・文/須藤礼子>

私は馬。視野350度の目で世田谷区の変遷を見てきました。万事塞翁が馬。私の記憶は52年前の東京五輪の頃から始まります。

【喜】日本がやっと世界から認められる機会が来た、と全国民が大喜び。馬事公苑で開催された馬術競技では、団体競技で6位入賞を果たし、得意で鼻ヒンヒンでした。

【怒】エンブレム等の混乱。日本人としてはずかしく、怒りがこみあげますね。でも、馬事公苑は大丈夫。2020年の五輪に備えて、来年から準備を開始するとのこと。

【哀】その間は一部イベントを除き休苑の予定。しばらくお会いできなくなるのはとても哀しいですね。馬の目にも涙です。ポロッ。

【楽】昔は畑が多かったこの辺りも、家、マンション、お店が増え、にぎやかでしゃれた街並みになりました。お年寄り用の施設も増えています。環境の良い世田谷で馬が合う友達と楽しい老後をご過ごすのが夢です。

<写真・文/鈴木健文>



馬から見た世田谷  
馬事公苑

まだまだ続く…  
私とカラスの  
知恵比べ



を求めて空を飛んでいます。人がいなくなるのを見計らって、カラスがどこからともなく現れ、ゴミ袋を破り、中から食べ物をあさり始めます。ゴミは無残にも、道路に散乱し、後片付けも一

春になると、苦勞です。

餌を求めて、カラスがやって来ます。生ゴミの日は、朝からカラスの鳴声がうるさく、ゴミ

カラスは、光る物が苦手と聞いて、古いCDを紐につるしたり、水を撒いてみたり、大きな音をたてたりしてみました。結果は惨敗です。結局、清掃局のアドバイスで、ゴミネットを使用して一件落着いたものの、カラスは、相変わらず虎視眈々とチャンスをうかがっています。生ゴミの日は、電線や木の上から、偵察に余念がありません。夏になり山にカラスが帰るまで、カラスとの知恵比べは続きます。

<文/網敷有美>